

2010 環境報告書

■ 事業概要 ■

会社概要

社名 株式会社二瓶商店
代表者 代表取締役 二瓶浩幸
資本金 1,500万円
事業所 本社 福島県福島市野田町六丁目8番36号
郡山工場 福島県郡山市熱海町高玉字七瀬山3
白沢工場 福島県本宮市和田字関宿10番地1
配車センター 福島県福島市在庭坂字向河原3-1
法人設立 昭和53年9月



事業分野

…再商品化事業Ⅰ(金属)…

・主要取扱品目 銅(電線、真中、リン青銅)、アルミ全般、ステンレス、貴金属(金、銀、レアメタル)

…再商品化事業Ⅱ(プラスチック)…

・主要取扱品目 プラスチック(プラスチック製容器包装リサイクル)

…産業廃棄物処理事業(処分)…

・主要取扱品目 廃プラスチック類、金属くず、木くず
・取扱品目 廃プラスチック類、金属くず、木くず、汚泥、廃油、紙くず、繊維くず、動植物性残さ、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

…産業廃棄物処理事業(収集・運搬)…

・主要取扱品目 廃プラスチック類、紙くず、木くず、金属くず、繊維くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、廃油、汚泥

■ 環境への取組み ■

経営理念

1. より良い地球環境の実現にかけがえのない自然環境を、健全な状態で次世代に引き継ぐことは、現代人の責務と考え、地球環境保全の向上を経営の最重要課題の一つと位置付けて、全社員でその実現に向けて行動します。
2. 地域社会への貢献
廃棄物処理の専門性と誠実なサービスで、地域社会に貢献致します。
3. リサイクル技術と蓄積されたノウハウで、社会から信頼される企業を目指します。

基本方針

消費型社会を資源再利用の循環型社会へと構築することが、私たちの使命だと考えています。

1. リサイクル技術を確立し、循環型社会の構築に貢献します。
2. 環境診断から改善までの一貫したサービスを通じて、環境保全に貢献します。
3. 環境保全に関する法令等を厳守し、事故や汚染の防止に努めます。
4. お客様と連携しながらリサイクルの推進を行い、環境保全に努めます。
5. 環境目的・目標を設定し、定期的な見直しにより、環境マネジメントの継続的改善を推進します。

■事業活動に伴う環境側面と環境影響■

※白沢工場は22年6月にISO認証を取得

当社の事業活動に伴い環境に与える影響を把握し、廃棄物処理業・リサイクル業者としての立場から環境負荷の低減に努めています。

環境側面(悪い影響)	環境影響	対象事業所	対象作業設備等
電力の消費	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化 酸性雨 天然資源枯渇 	全事業所	各設備機器、OA機器 空調、照明等
燃料の消費	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化 酸性雨 天然資源枯渇 大気汚染 	全事業所	営業車両 運搬車両 焼却炉 重機類
産業廃棄物の排出	<ul style="list-style-type: none"> 天然資源枯渇 廃棄物処分場圧迫 	郡山工場 白沢工場	解体、切断、破碎、 焼却、洗浄、保管
排気ガスの排出	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化 酸性雨 大気汚染 快適性侵害 	全事業所	営業車両 運搬車両 重機類
ばい煙(排ガス)の排出	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化 天然資源枯渇 酸性雨 大気汚染 快適性侵害 	郡山工場	焼却炉
ダイオキシン類の排出	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染 水質汚濁 土壌・地下水汚染 	郡山工場	焼却炉
排水処理施設からの排出	<ul style="list-style-type: none"> 水質汚濁 土壌・地下水汚染 	白沢工場	ベルトスクリーン
廃棄物の収集・運搬	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染 土壌・地下水汚染 水質汚濁 快適性侵害 	配車センター	運搬車両

環境側面(良い影響)	環境影響	対象事業所	対象作業設備等
各種廃棄物の処理	<ul style="list-style-type: none"> 天然資源枯渇 廃棄物処分場圧迫 	本社、郡山工場 白沢工場	産業廃棄物の受入
再資源化物の出荷	<ul style="list-style-type: none"> 天然資源枯渇 廃棄物処分場圧迫 	郡山工場 白沢工場	解体、切断、破碎、 保管
会社周辺の美化活動	<ul style="list-style-type: none"> 土壌・地下水汚染 快適性侵害 	全事業所	全事業所周辺

また、当社の事業、環境保全を含めた活動に対する理解と協力を頂くと同時に、良好なコミュニケーションを図るきっかけとして、利害関係者はもちろん地域住民、児童・学生の施設見学の受け入れを行っています。

■ 2009年度活動の実績と比較 ■

※2009年度は、21年9月1日から22年8月31日まで

電力使用量(CO2排出量)の削減、燃料使用量(CO2排出量)の削減、地域社会との協調などを推進項目に挙げ全社員で環境保全活動に取り組んでいます。

電力使用量(CO2排出量)の削減項目においては、環境保全活動開始の2006年度実績から12.7%削減できました(約130,000kwhの削減)。CO2排出量に換算すると42tの削減となりました。

燃料使用量(CO2排出量)の削減項目においても、2006年度に比べ26.4%削減の削減となり、環境マネジメントシステムを的確に運用し、継続的な改善によって大きく目標を達成しています。

※白沢工場の実績については、マネジメントシステム運用からわずかに5ヶ月足らずであり、比較データがないため白沢工場分を含みません。

推進項目

1、再資源化物出荷量の拡大(実施事業所:郡山工場)

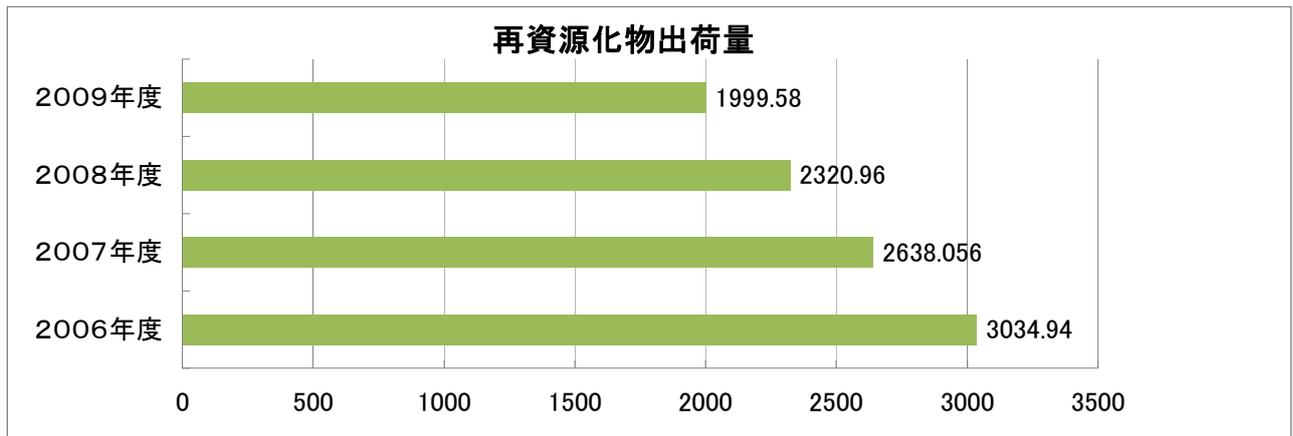
当社より、廃棄物として排出するものであっても、最終的にリサイクルとなるもの(燃えがら→路盤材)を含め、金属くず、プラスチック類の売却数を年度別に比較しています。

リーマンショックの影響により廃棄物の受入そのものが減少したため出荷量は年々減少しました。

… 再資源化物出荷量 …

(単位:t)

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
3034.940	2638.056	2320.960	1999.580

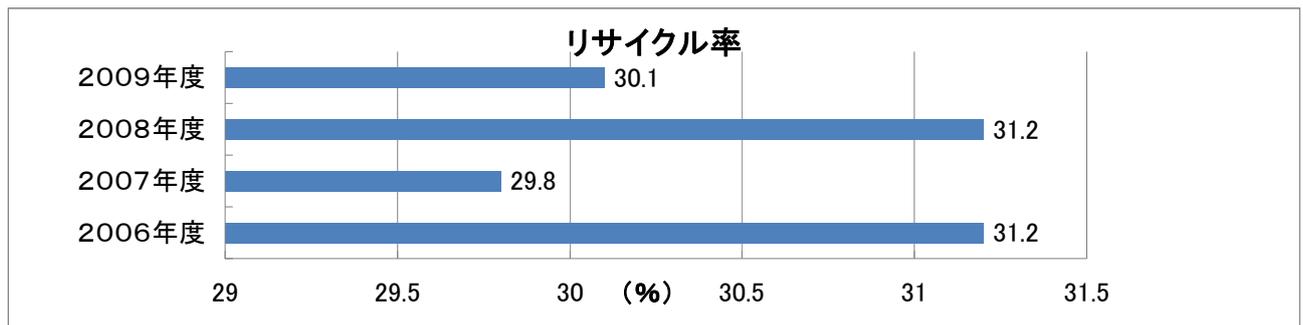


推進項目の達成には届かないものの、郡山工場でのリサイクルへの取組みにより、下のグラフのとおり廃棄物の受入量が減少傾向にも関わらず30%前後を維持しています。

… 廃棄物の受入量に対するリサイクル率 …

(単位:%)

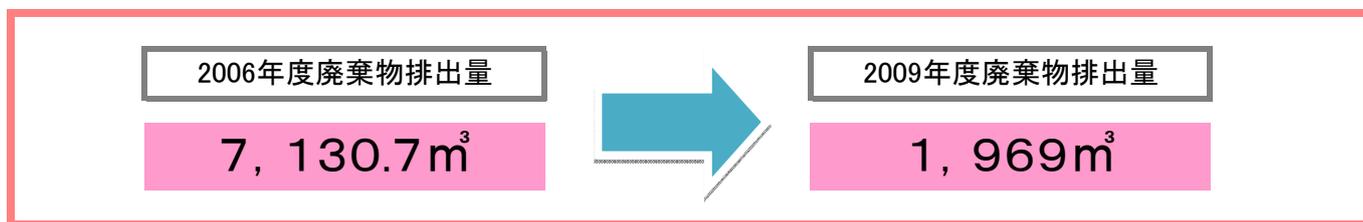
2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
0.312	0.298	0.312	0.301



2、産業廃棄物排出量の削減(実施事業所:郡山工場)

『混ぜればゴミ、分別すれば資源』を常に意識し、勉強会や研修会、随時ミーティングを実施し産業廃棄物(埋立)の排出量削減に取り組んでいます。

受け入れる廃棄物はリーマンショックを境に『処理(リサイクル)困難物』の割合が増え始め、従事者の知識や経験が必要不可欠な状況となりましたが、積極的な取り組みの結果2006年度から2009年度の4年間で72.4%と大幅な削減となりました。



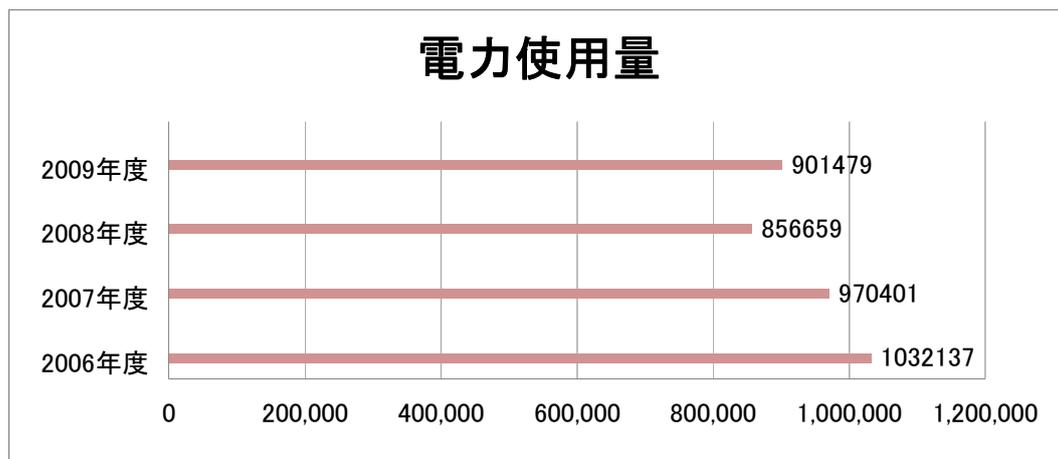
3、電力使用量(CO2排出量)の削減(実施事業所:全体)

福島議定書登録、郡山市エコ・オフィス取組み(郡山工場)や各事業所の施策、勉強会実施、記録による管理により電力使用量の削減に努めています。

電力消費量の大半を占める郡山工場の焼却炉。その他圧縮機などの処理施設、白沢工場の設備についてはこまめにメンテナンスを行い、効率の良い稼働により排出量は着実に減少しています。

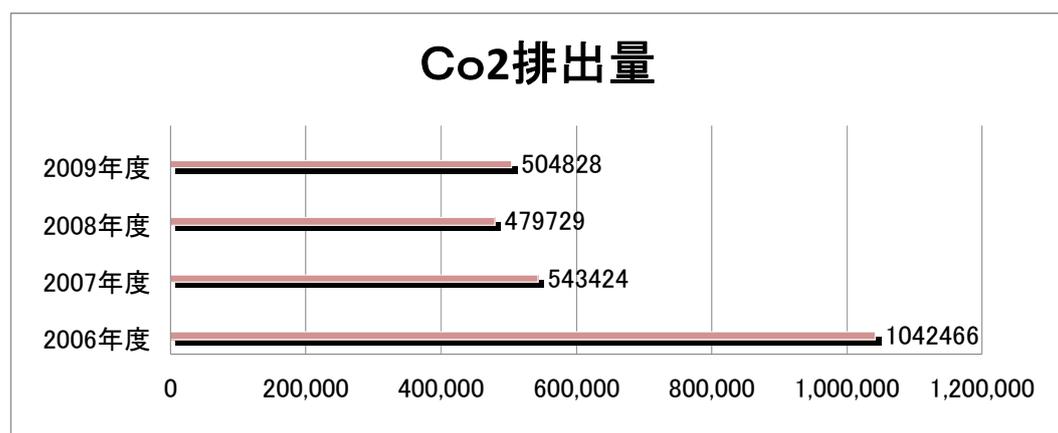
… 電力使用量 … (単位:kwh)

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
1,032,137	970,401	856,659	901,479



… CO2排出量 … (単位:kg-CO2)

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
1,042,466	543,424	479,729	504,828

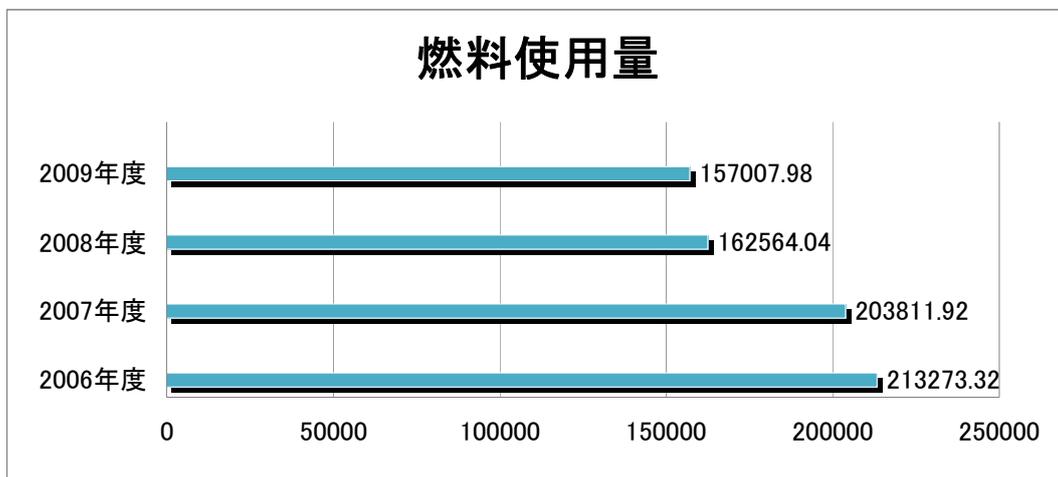


4、燃料使用量(CO2排出量)の削減(実施事業所:全体)

全事業所でのエコドライブ実施を始め、営業・運搬ルート of 合理化、交通状況を検証したうえでの経済的な運転などにより、燃料使用量の削減に取り組んでいます。また、自動車メーカーを招いた安全運転講習会を実施するなど積極的な活動を展開しています。

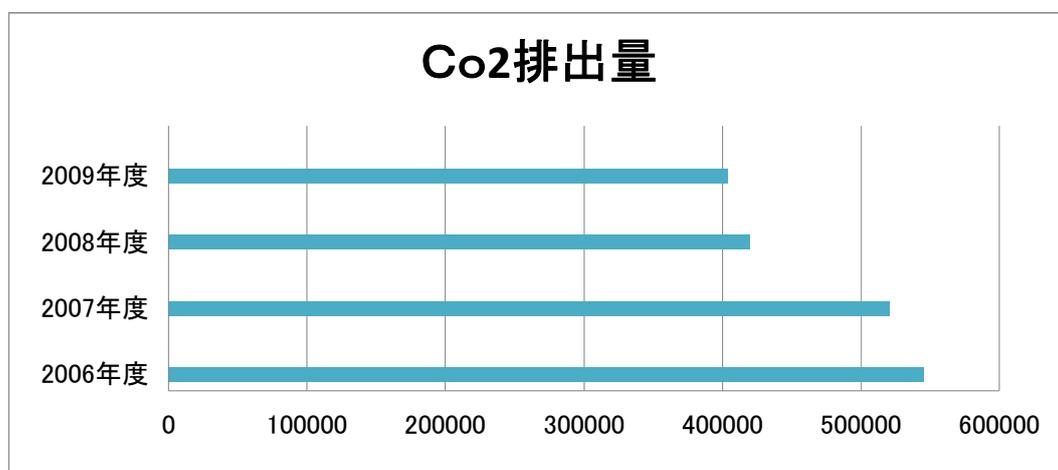
… 燃料使用量 (ガソリン、軽油、灯油)… (単位:ℓ)

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
213,273.32	203,811.92	162,564.04	157,007.98



… CO2排出量 … (単位:kg-CO2)

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
545,099	520,481	419,080	403,339



5、焼却炉の適正な運転(実施事業所:郡山工場)

当社は2機の焼却炉を設置しています。焼却炉においてはダイオキシン類対策特別措置法の規制対象となっているため、年に2回のダイオキシン濃度の測定を行っています。最近の測定では、21年9月25日に1号炉、21年12月12日に2号炉で実施し、法規制値を十分下回りました。また、当社では国の基準値10ng-TEQ/mNに対し、自社基準値を5ng-TEQ/mNとして排出濃度を抑制するために適正な管理を行っています。

この他、CO排出平均基準値についても国の基準値100ppm以下に対し、自社基準値80ppm以下として毎日の記録により管理、自主基準値を維持しています。

(単位:ng-TEQ/mN)

	測定日	測定値	国の基準値	自社基準値
1号炉	21.9.25	0.60	10	5
2号炉	21.12.12	0.82	10	5

6、排水処理施設・浄化槽の適正な管理(実施事業所:白沢工場)

白沢工場において排水処理施設及び浄化槽を有しています。排水処理施設においては毎日排水の水素イオン濃度(ph)、浮遊物質質量(SS)の測定と記録を行い、厳しく管理しています。また、月に1回外部委託による水質検査を自主的に行い、適正に管理しています。

浄化槽においては、浄化槽法に基づく点検、清掃、定期検査を行い適正管理に努めています。

《 毎日の測定状況 》



《 外部機関による環境監査状況 》



7、地域社会との協調(実施事業所:全体)

当社では、地域と融和した取組みとして、行政や各種団体が主催する環境行事への参加、事業所が所在する地域が行う清掃活動に、積極的に参加しています。その他、全事業所において毎月1回の地域清掃活動を実施し、地域住民とのコミュニケーションを図っています。

また、地域見学者の受入れや、行政・学校などからの依頼により講師派遣を行い、計画的に地域協調活動を行ってます。

今後も地域に根付いた企業を目指した活動を継続し、コミュニケーションを図ることにより信頼関係の構築に努めていきます。

《 福島大学での講義 》



《 地域周辺の清掃状況(白沢工場) 》



《 地域住民の見学受入れ(郡山工場) 》

